

掲示物の配慮

ポイント3

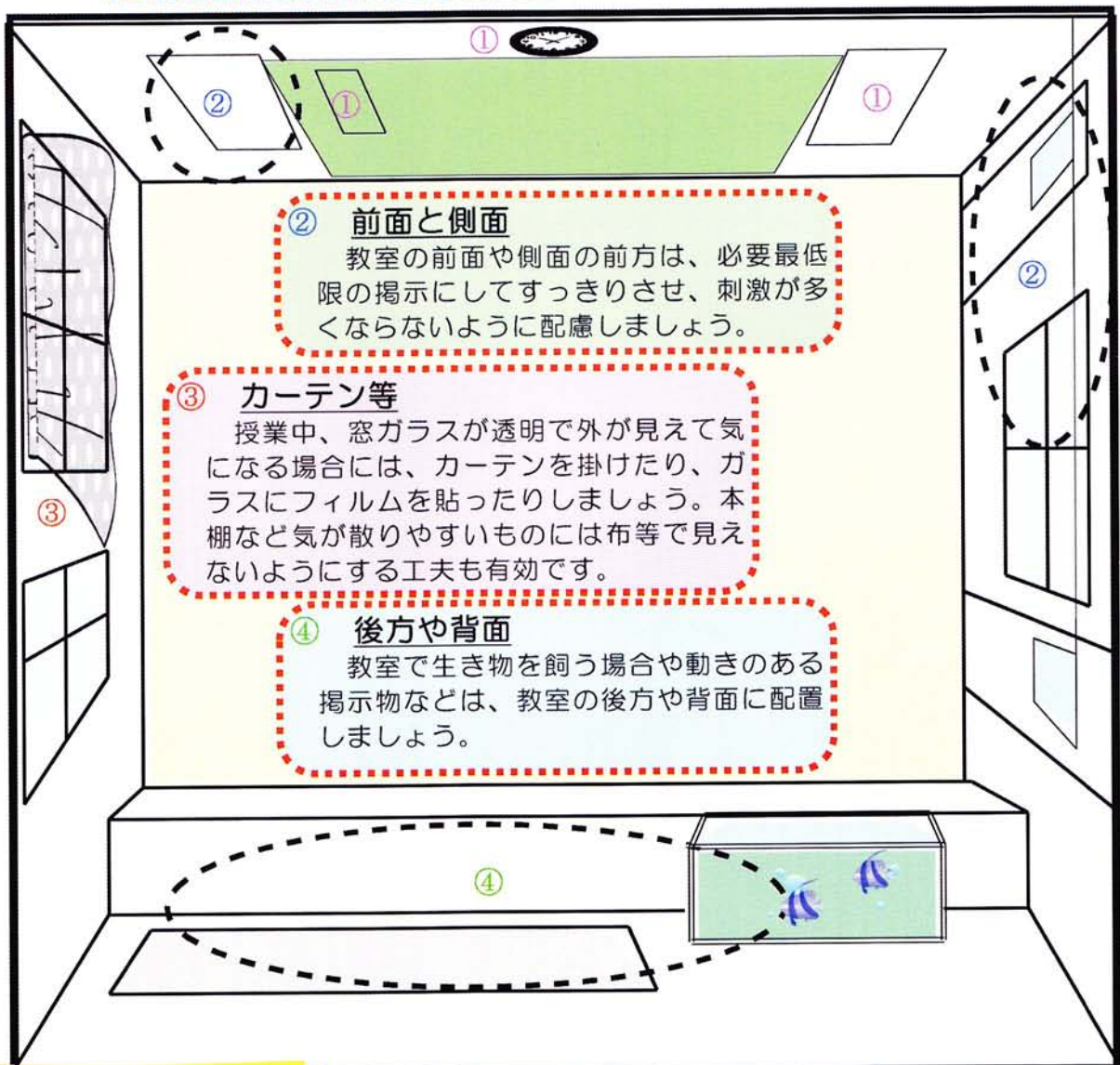
～学習に集中させる～



教室の中に、子どもの作品や取組のめあて、経過等が掲示してあることは、教室に活気を与えます。しかし、カラフルな掲示や動くものに興味を持ち、大切なことに集中できなくなる子どももいます。掲示物の配置を工夫することによって、どの子にとっても、やる気がわき、落ち着いて学習できる環境となります。

① 見通しの持てる掲示物

教室の前面などの見やすいところに時計を設置し、1日の予定、1時間の授業の流れなど、見通しの持てる掲示物や板書を心がけましょう。



② 前面と側面

教室の前面や側面の前方は、必要最低限の掲示にしてすっきりさせ、刺激が多くならないように配慮しましょう。

③ カーテン等

授業中、窓ガラスが透明で外が見えて気になる場合には、カーテンを掛けたり、ガラスにフィルムを貼ったりしましょう。本棚など気が散りやすいものには布等で見えないようにする工夫も有効です。

④ 後方や背面

教室で生き物を飼う場合や動きのある掲示物などは、教室の後方や背面に配置しましょう。

特別支援教育の視点より

子どもにとって、様々な色が使われているマグネットや掲示物、水槽やカーテンなど動きのあるものは、大きな刺激となります。そのため、授業よりもそちらに注意が向いてしまう場合があります。授業中に刺激となるものは、目に入りにくい位置に置くようにすると、先生の動きや黒板の方に注意を集中させやすくなります。